

Ⅱ-12 「子どもの心に寄り添うって…

～子どもの心のおくのおく、見えていますか～

①進め方

[ワーク1] 子どもの意欲や思いをそいでしまいそうな、日々の親の言動を出し合い、話し合うことで、子どもへの関わりを振り返るきっかけとなるようにする。

[ワーク2] ワーク1や絵本の内容等を踏まえ、子どもの思いを大切にした関わり方について、グループで話し合う。

② 実践例

【ワーク1】



「子どもが元気に育って欲しい」「いつも笑顔でいて欲しい」「自分も笑顔で子育てしたい」…親ならみんなそう思っていますよね。

でも、毎日、家事や子どもの世話、仕事などに追われて疲れてしまい、ついイライラ、ガミガミ言うてしまうことありませんか。

本当はいつも優しく、子どもの気持ちにしっかり寄り添える親でありたいのに…。

今日はみなさんと一緒に、お子さんとの関わりについて考えていきます。

では、こんなエピソードを紹介します。

(エピソードを読む)

さあ、みなさん…子どもはどんな気持ちになったでしょうか。

(参加者の様子を見渡す)

そうですね。子どもの立場に寄り添ってみると、

「もう少しでトンネルができるのに。もう少し待って！」

「待って！私をおいて帰らないで」

「おこらないで」

というように、自分を見捨てないでというような思いを持つのではないのでしょうか。

また、

「ここまでできたトンネルを見て欲しい！すごいでしょ。」

と、もっと自分を見て欲しい、認めて欲しいという思いを持っているかもしれません。

「お母さんだってさっきまでスマホをしていたでしょ！」

など、親の自分勝手な言葉を腹立たしく思う子もいるかもしれませんね。

いずれにしても、このエピソードの母親の言動はおそらく、子どもの思いに寄り添ったものではなさそうですね。



今度はみなさん自身の経験について少し振り返ってみましょう。
先ほど話題にした「エピソード」のような経験はあるでしょうか。
これから少し時間をとりますので、「子どもが傷つくかもしれない言葉」について思い出してみましょう。

例えば、「早くしなさい」とか、「何回言ったら分かるの、もう知らんよ」など、ついつい言ってしまう口癖のような、もしかしたら子どもの心を傷つけているかもしれない日々の場面を思い起こしてみてください。

自分の経験から思いつかない場合は、子どもの思いや意欲をそいでしまいそうな親の言葉について、こんな言葉かけはいけないだろうと想像してみてください。

付せん紙に、思いついた言葉を書き出していきましょう。机上の付せん紙、1枚に1つ書いてください。2つある人は2枚に、3つの人は3枚になります。少し時間をとります。

それでは、どうぞ！

記入の様子を見て回る。

みなさん、いくつか書いてくださっていますね。では、付せん紙に書いたことをグループ内で発表してもらいます。

順番に一人ずつ、模造紙に付せん紙を貼り出し、発表しながら、交流してください。その場面についてのエピソードがあれば、少し詳しく語っていただくと、その時の状況が理解できると思います。

「ああこれ似てるなあ。」と思うものがあったら、「そうそう、私も同じ！」などと言いながら、近くに貼って行ってください。

それでは、始めてください。



グループを回り、話し合いの様子を観察する。

全体で共有すると参加者の視点が広がったり、思考が一層深まると思うものについては、グループでの話し合いの後、全体に広げる場面があってもよい。

(予想される反応)

- 朝ごはんの時に子どもに「早く食べなさい」「さっさとしなさい」と言う。
- 何度も注意しているのに同じ失敗した時、「だから言ったでしょ！」と言う。
- 何度も伝えているのに言うことを聞かない時、「何度同じこと言わせるの！」と言う。
- 出かけるのに準備ができていない時、「お母さんの言うことを聞きなさい！」と言う。
- 「ダメよ」と言っても「買って！」とだだをこねた時、「もう、知らない！」と言う。
- 親に次の予定がありイライラしている時、つい感情的な関わりになってしまう。





ありがとうございました。状況によって、自分の都合や感情で子どもに関わっていることもありますよね。

また、親としては「良い子に育てたい」「きちんとしつけをしたい」などと思うあまり、「～してはダメよ」「～しなさい」などの否定的、命令的な言葉かけをしてしまいがちですよね。

でも、幼いといえども、子どもは親とは別の人格を持った一人の人間です。子どもはその言葉や関わりをつらい思いで受け止めているかもしれません。

「絵本の読み聞かせ」または「資料1・2の紹介」どちらかを選択し、一層の気づきを促す

「絵本の読み聞かせ」を選択した場合



ここで、1冊の絵本をご紹介します。

自我に目覚める2・3歳向けの絵本ですが、毎日、仕事や家事、子育てで忙しい親の気持ちをふっと軽くするヒントが見つかった絵本です。友達とけんかをしてしまった、メグちゃんという女の子が主人公です。それでは、読んでみます。お聞きください。

絵本の読み聞かせをする

(読み聞かせの後、少し余韻を持たせて、話し始める)



いかがでしたか。みなさん、それぞれ、ご自分の日常と重ね合わせながら聞かれたのではないのでしょうか。

これから少し時間をとりますので、絵本の内容について、みなさんが今、感じられている気持ちをグループで交流していただけたらと思います。

絵本の内容についての感想でもよろしいですし、ご自分の子育てと重ね合わせで感じられたことでもよろしいです。

グループを回り、話し合いの様子を観察する。

(予想される反応)

- メグちゃんの気持ちを分かってあげられるおばあちゃん存在があつて良かったと思いました。温かい気持ちになりました。
- 私も余裕がないときは、このお話のお母さんのように子どもが望んでいない言い方をしているような気がします。反省させられます。
- 毎日忙しくて、分かっているけれど、ついガミガミ言ってしまいます。「子どもの気持ちになって答えてあげないと」と頭では分かっているのですが…。
- 「魔法の耳」という言い方がステキですね。私も子どもの思いをくみ取ってあげられる親になりたいと思いました。



資料1・2を選択した場合

【資料1】

【資料1】をご覧ください。

1冊の絵本をご紹介します。自我に目覚める2・3歳向けの絵本ですが、毎日、仕事や家事、子育てで忙しい親の気持ちをふっと軽くするヒントが見つかった絵本です。



友達とけんかをしてしまった、メグちゃんという女の子が主人公です。けんかをしたメグちゃんへお母さんもお父さんもメグちゃんの気持ちと違うことを言います。でもおばあちゃんだけはメグちゃんのことを分かってくれ、ぴったりの言葉をかけてくれて…というお話です。子ども自身がどうしたいか、子どもが何を望んでいるのか、丁寧に向き合える大人になれているか…立ち止まって振り返ることのできる絵本です。

【資料2】

【資料2】をご覧ください。

これは、人権教育資料集に掲載されている、山陽学園短期大学（当時）村中先生の自尊感情に関する記述です。

乳幼児期は、子ども自身が「愛されている」「大切にされている」という実感を日々の生活の中で積み重ねていく経験が重要になります。

この時期に、日々の生活の中で、「お母さんは、自分のことをすごく分かってくれる」とか「お父さんと一緒だと安心する」「自分はみんなから大切にされている」と感じられる言葉をかけてあげること、認めてあげること、寄り添ってあげることが必要な関わりとなってきます。その積み重ねが、子ども自身の自尊感情を育むことにつながっていくのです。そして、自尊感情は、良い面ばかりでなく、欠点をひっくるめ、ありのままを受け入れ、認めていくことが大切であることも心に留めておきましょう。

幼い時期にそういった実感を得られる関わりを十分経験した子どもは他者に対しても信頼感をもつことができ、自分や他人を大切にすることができる人に成長していくことができるのです。子どもの思いに寄り添いながら、子どもの成長を親が応援するという姿勢がすてきななあとと思います。



【ワーク2】

これまで、子どもの思いに寄り添う関わり、思いをしっかり受けとめる関わりが子どもの成長に大切であるということをおみなさんで共有できたと思うのですが、今度はもう少し具体的にどんな関わりができるかということを考えてみましょう。



お子さんとの関わりでこれから心がけてみようと思ったこと、大切にしたいと思ったことはありますか。日頃の声のかけ方などで心がけていること、我が家の子育てポイントなど、すでに取り組みされていることでもかまいません。ワークシートに書き出してみましょう。

記入の様子を観察する。



よろしいでしょうか。
みなさん、だいたい書けたようなので、グループごとに、それぞれが大切にしたいと感じたことや大切にしている関わりなどを交流しましょう。

グループを回り、話し合いの様子を観察する。

(予想される反応)

- 思いを言葉にするまで「待つ」という意識をもって話を聞くようにしたい。
- 一緒にたくさん遊んで、会話をし、しっかりほめるようにしたい。
- 抱きしめる、頭をなでる等、しっかりスキンシップをとるようにしたい。
- 園であったことや友達のことなど、子どもの話をしっかり聞くように心がけている。
- 一つ一つ、自信につながるように、いろんなことに挑戦させている。
- 子どもの表情が曇っていたり、元気がなかったりする時は、思っていることをじっくり聞くようにしている。
- 安心して一日が終わるように、寝る前に抱っこして、読み聞かせをしている。
- 添い寝しながら、子どもの話を聞くようにしている。



みなさん、全員お話ができましたか？それでは、グループで出た関わりをいくつかのグループに紹介いただきたいと思います。

いくつかのグループに発表してもらおう。



ありがとうございます。それぞれのグループですてきな言葉かけや関わりがたくさん出ていましたね。

(例)「しっかり話を聞いてあげる」というのはいくつかのグループでも出ていました。十分に関われない時も日常生活の中にはあると思いますが、子どもの思いに寄り添うことの大切さを心に留めて、お子さんと関わっていくことができるといいですね。子どもの話を否定しないで、受け止めていくということが大事なのでしょうかね。

心に余裕がなければ、子どもの話をゆったり聞くことも難しいものです。もし、感情的になり叱りすぎたかもしれないなあと思った時には、子どもをぎゅっと抱きしめ、叱りすぎた思いを子どもに伝え、なぜ叱ったのかを子どもに分かりやすく話してあげるなどのフォローが必要かもしれません。

今日、みなさんがそれぞれグループの中でお話をして、感じて、考えて、得たものがあると思います。それを大事に持ち帰っていただきたいと思います。

※ 資料2の場合は、前々ページを参照

【資料3】



いい子に育ててほしい、幸せになってほしい、きちんとしつけないと願うあまり、「～しなさい」「～してはいけません」などの言葉がけが多くなっているませんか、と尋ねられると、心がどきっとしませんか。

(「私もそうでした。」など、ファシリテーター自身の思いを伝えても良い)

子どもの成長は嬉しいものですが、親としては「しっかりしつけておかないと」「～もしておかないと」とわが子への注文も多くなってしまいがちですよね。また、子どもが悩みをもつと「～してみたら」「～するべき」と、子どもにかかわって解決し、親が安心してたくなりますよね。他の子どもなら、大目に見られるんだけど、わが子となると放ってはおけずつい口うるさく言ってしまうがちですよね。

でも、親子といえども別の人格なのです。わが子は親の思いどおりにはできません。「親の言うことを聞かない子ね」と親が思うように、子どもも「お母さん(お父さん)は、どうせ気持ちをわかってくれないんだ」と思っているかもしれません。

人には、悩みや問題を解決する力が必ず備わっています。子どものその力を信じて、見守る聞き方は、コミュニケーションの知恵の一つです。言葉にできない子どもの心のおくにある、もやもやした気持ちをくみとることで、子どもも自分の本当の気持ちに気づくことができるのです。

親の思いを一方向的に押しつけず、子どもの気持ちをくみとることが大切なのだと思います。子どもが自分でのりこえられるように、子どもの心に寄り添うことが大切なのですね。

【資料4】



「子どもの権利条約」は、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約です。子どもの定義を18歳未満とし、ユニセフもこの条約に書かれた子どもたちの権利が守られる世界を実現するための活動をしています。

資料をご覧ください。この条約は大きくわけて次の4つの子どもの権利を守るように定めています。そして、子どもにとって一番いいことを実現しようとうたっています。

(時間があれば、1～4の権利について資料をもとに説明する。)

「子どもにとって一番いいこと」って何でしょうか。親が思う「一番いいこと」と「子どもが思う一番いいこと」って同じでしょうか。もし、親と子の意見が分かればどうでしょうか。子どもはまだ幼いから、親が決めた方が幸せでしょうか。子どもの人生だから、少し不安だけど子どもの考えを尊重するのがよいのでしょうか。

(少し間をとる。)

この条約の第12条には、子どもは自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利をもっているということが記されています。子どもの発達段階に応じて、子どもの意見や考えを生かすことが大切だと「子どもの権利条約」にも示されていて、日本のみならず、全世界のすべての子どもが、最大限大切にされるべき存在であることを改めて感じます。

【資料5】



子どもにとって家庭が、「ほっとできる場」「笑顔と輝きを与えられる場」となるように大人の関わり方を今一度、再確認してみたいと思います。「子どもとのつながりを深めるコミュニケーションづくりを意識しましょう」と「子どもの思いや心のつぶやきをしっかりと聴きましょう」という2つの視点で、今の自分の関わりを振り返るようなチェックシートとなっています。

今日でなくても、ぜひ、自分の関わりはどうか振り返っていただけたらと思います。

(時間があれば、現在の関わりについて、簡単にチェックしてもらう。)

家庭が子どもにとって、安心して自分の思いを出せる場となるために子どもの思いに寄り添う関わり方ができるといいなあと思います。また、子ども自らの「問題を解決する力」を信じて、時には思いを見守る聴き方もできると良いですね。大人が聞き上手になることで、子どもは発言力・表現力が豊かになるそうです。

子どもの心に響く言葉で会話をし、実のあるコミュニケーションを交わすというのは、日々の生活の中では少し理想的と感じることもあるかもしれませんが、親子関係は切っても切れるものではありません。親と子が濃密に関わることでできる今の時期を大切にすることで、子どもが成長しても、お互いにわかり合える親子関係につながると思います。

資料説明の後で

時間に余裕があれば、感想を記入し、共有を行う。



先程、みなさんで交流し合った、お子さんへの関わりも大事にしていたきながら、子どもの成長を楽しみに子育てができるといいなと思います。

今日、みなさんと一緒に考えて、それぞれが心に残ったことがあると思うので、お書きください。最後にそれをグループの中で伝え合って終わりにしようと思います。

では、みなさんで、今日の感想や得たものなどを伝え合ってください。



ありがとうございました。今日は、みなさんと一緒に、お子さんとの関わりについて考えていきました。

子ども自身が「愛されている」「大切にされている」という実感を、日々の生活の中で積み重ねていくことが大切だということが確認し合えたと思います。子どもの思いに寄り添った温かい関わりを心がけ、子どもの成長を支えていくことができるといいですね。

(場合によっては)

- ・また、今日グループになったのもご縁ということで、今後とも気軽に語り合えるような関係になるといいと思います。
- ・これからも一層、関係を深めていきたいですね。